

# 日刊動労千葉

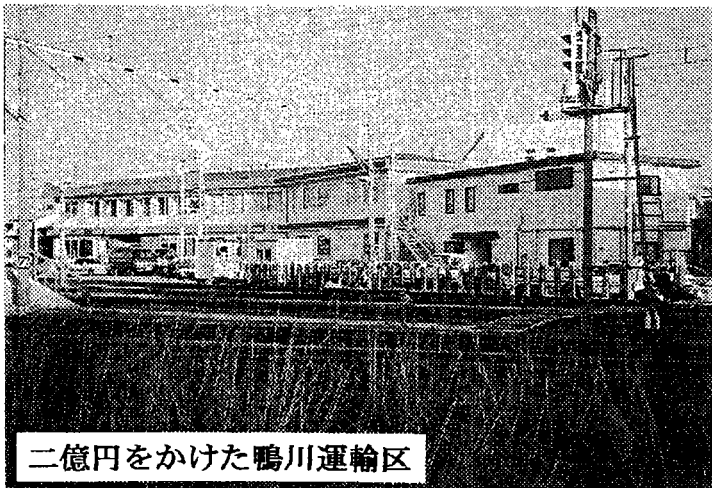
国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

95.11.17 No. 4295

- 勝浦運転区廃止攻撃粉碎！
- 強制配転者の現職復帰！
- 外房線120km/h運転反対、運転保安確立！
- 不当労働行為根絶！

# 11/28-12/1 ストライキ！



二億円をかけた鴨川運輸区

## 勝浦支部が、 全員集会開催！

十一月十三日から十五日の三日間にわたって、勝浦運転区廃止攻撃粉碎に向けた、勝浦支部の全員集会が開催された。集会には、運転区をはじめ、営業関係に配転されている組合員や出向者全員が集まり、OBの方も参加して、闘いへの総決起態勢がつくりあげられた。

また、集会終了後には、怒りを内秘めながらも、なごやかなうちに懇親会が開かれ、ストライキに向けて、一層強く団結をうち固めた。いざ出陣。闘いへ！

全員集会では、支部代表が「勝浦運転区廃止攻撃も、強制配転者の塩漬け攻撃も、諸悪の根源は、松田・松崎体制だ。絶対に許せない。JR体制が揺らぎはじめた状況についてストライキに立ちあがろう。支部としても、ここはめいっぱい闘わなければならぬ時だと考えている」との訴えが行なわれた。その後、本部より情勢報告と、十二月ダイ改闘争の基本的な考え方が提起され、活発な議論が行なわれた。

勝浦支部は、万全の闘争体制を築いている。この攻撃は、勝浦のみならず、動労千葉全体にかけられた組織破壊攻撃だ。全支部の総決起体制をつくりあげよう！

これが、鴨川運輸区だ。動労千葉を潰す目的だけのために、千葉支社は、二億円以上の金をかけて、なんの合理性もないこの庁舎をつくったのだ。絶対に許せない。JR東労千葉地本は、当局と一体となって、「鴨川運輸区はJR東労が運営する」と公然と語っている。廃止対象となる勝浦運転区に働く者の処遇は、未だ何ひとつ明らかにしていない一方、すでに、東京からの異動も含めて、二〇名の運転士が送り込まれている。現に、そのほとんどがJR東労組合員だ。まさに、当局・JR総連・革マル一体の不当労働行為！こんなことが許せるか！



しかも、当局は、二〇名の送り込み分子の線見訓練を行なうのに、何と特別列車を仕立てたのだ。線見訓練に特別列車を仕立てるなど、見たことも聞いたこともない。写真の横サボにも「試運転」の文字がでてくる。一から十まですべてが異常だ。昨年来、測量を行なっていないながら箝口令をしき、四月の経営計画でも隠しとおす一方、JR東労組合員には、転勤の打診をしまわり、そして線見訓練は特別列車のガードマンつき。これが、JR総連と結託した現在のJRの姿だ。しかも、九月から送り込みを開始したのは、スト破り要員とするためだ。怒りも新たに立ちあがろう！

動労千葉は、本日の支部代表者会議で、勝浦運転区廃止攻撃粉碎、強制配転者の原職復帰、運転保安確立、一切の不当労働行為根絶に向けた闘いの方針を確認する予定である。全支部の総決起体制をつくらう！